

自彊前進

NO. 8 平成28年9月17日(土)
附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の詞から)

附中生の青春 -演劇発表会に寄せて-

副校長 津野 庄一郎

附中の伝統行事の一つ、演劇が今年も大きな感動に包まれて幕を閉じました。観客からいただいたたくさんの拍手は、表舞台に立つキャストだけでなく、小道具や大道具など裏方のスタッフも含め、全員に送られた祝福と労いの拍手です。今年度の演劇も自分達で設定したキーワードである「自分再発見」「協働」「創造」を見事に体現した素晴らしい演劇でした。

この演劇は、附属の特色ある伝統行事の一つで、始まりは昭和29年(1954)にさかのぼり、以来「夕鶴」や「レ・ミゼラブル」等の名作の上演など、歴史を刻んできました。皆さんの上演も長く記録に留められることとなるでしょう。

附中の演劇活動は、5月の係員選出からスタートします。その後、原作の読み合い、題材の選定、題材から脚本、脚本から演技の構成へ練り上げられます。いつの間にかメディアルームは脚本や広報紙の原稿で埋まり、教室やオープンスペースは作業場や練習場と化します。演劇を通して目指す姿にどれだけ近づけたのか。自分達の伝えたいことが表現しきれているのか。妥協せず、悩み、ぶつかり合い、わかり合おうとしながら、唯一無二の作品に仕上げたのです。そこには、いつも汗を流して頑張る仲間の姿がありました。演劇はまさに附中生の青春そのものと言えましょう。

演劇というと、私たちの多くの人が「舞台に立つ人」を思います。しかし、附属の演劇活動はこれとは違い、「演劇の舞台は、決してキャストだけでは創れない」ということを実感します。そこでは、生徒一人一人の個性・持ち味が生かされます。本気で「かかわろうという気持ち」さえあれば、いろんな場面で自分を生かすことができるのです。附属の演劇は、個人や作品の質的な高まりだけではなく、活動を通して学級や学年集団の高まりを目指します。そういった意味から、附属の演劇は生徒会スローガンである「自主独立、協同」の精神を、最もよく体現する活動といってもよいでしょう。そしてまた、それが本物であるか否かは、これからの皆さんに日常の姿が教えてくれることでしょう。

演劇で学んだことが、皆さんのよりよい生き方につながることを切に願います。



【各学年・学級のポスターと演目】



1 学年
「13歳のシーズン」



2 学年
「博士の愛した数式」



3 年 1 組
「星の王子さま」



3 年 2 組
「ホーンテッドマンション」



3 年 3 組
「青空のむこう」

